

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人 盛岡大学
施設名	幼保連携型認定こども園 盛岡大学附属幼稚園
報告者（役職）	畠山 須賀子（園長）
住所・連絡先	岩手県盛岡市厨川5丁目4-1
	TEL 019-641-2557
	E-mail m.kodomo@morioka-u.ac.jp

### ○タイトル（保育計画）

おそとで あそぼうよ !!  
～ちっちゃいこもおっきいこも、みんなでておいでよ～

### ○主な助成備品

未満児用滑り台、ログハウス、黄色マルチフェンス、プレーリーテーブルとイス

## 1. 保育計画策定の目的

幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園は、盛岡大学附属厨川幼稚園（1968年開園、定員75名）と、盛岡大学附属松園幼稚園（1973年開園、定員75名）を統合し、令和4年4月に開園し、0～5歳児が在籍しています。

『キリスト教精神に基づき健康で明るい心の豊かな子どもを育てる』・「心と体も健やかな明るい子ども」・「豊かにのびのびと表現する子ども」・「意欲を持って活動に取り組む子ども」を育成することを教育目標とし、よりよい保育を提供できるよう努めています。

開園当初、未満児、以上児ともに十分な固定遊具を設置して心身の発達を促したいと考えていました。園舎裏には木々や草花が茂った場所もあり、四季折々の自然に触れながら五感を使って遊ぶ環境もあります。広い園庭に設置される大型滑り台では、子ども達が集まって全身を使って登ったり滑ったりしてダイナミックに遊ぶことが予想されました。その他に未満児の子ども達にも別な未満児用の小さい滑り台を園庭に設置することで、繰り返し「のぼる」「すべる」を楽しむことが安全にできるようにしたいと考えました。未満児用の滑り台を設置することで、未満児の子ども達も楽しみながら脚力やバランス感覚等の体感が育つことを期待して計画しました。また、ログハウスやプレーリーテーブルを設置することで、一緒にごっこ遊びや見立て遊びのイメージを広げて楽しみながら社会性を培っていきたいと考え、この事業を活用した保育計画を策定しました。

## 2. 具体的な実施内容

### ○ 黄色マルチフェンス

未満児、以上児の子ども達の園庭のスペースを黄色フェンスで仕切ったことで、互いに遊ぶ姿を見ながら、かつ自由に安全に外遊びが楽しめるようになりました。未満児の子ども達が自分たちの遊びにのびのびとじっくり取り組める環境が整いました。フェンスが複数あることで囲ったり目印にしたり空間を仕切ったりと多様な活用方法があり活躍しています。



### ○ 未満児用ぞうさん滑り台

< 0 歳児 >

保育者にサポートされながら階段をハイハイで登ろうとしたり、抱っこで頂上に座らせてもらい視線の変化や滑る感覚を楽しんだりする姿が見られました。トンネルの存在に気づいたけど最初は怖くてくぐれないという姿も見られましたが、向こうから声が聞こえたりボールが転がってきたりするのを見てのぞき込み、一人また一人とくぐり抜けては「ばあ」と嬉しそうな表情を見せるなど、新しい事にもチャレンジできるようになり喜んでいきます。最近ではおなかやおしりで滑る楽しさにも気づき始め、体幹やバランス感覚が育っています。



< 1 歳児 >

春先は慎重に階段を上り下りしたり保育者と手をつないで滑ったりすることを楽しんでいました。滑り台のトンネルでは、誰かと対面で「やっほー！」とのぞく楽しさや四つん這いでくぐる面白さを感じ、身のこなしが上手になってきました。「カンカンカンカン」と保育者の腕を踏切に見立てて、ワクワクしながら自分の滑る順番を待つということも経験することができました。夏には、滑り台に少量の水をじょうろで流し、両サイドの保育者に両手を支えてもらいウォータースライダーのようなスピード感も楽しみました。



## ○ ログハウス

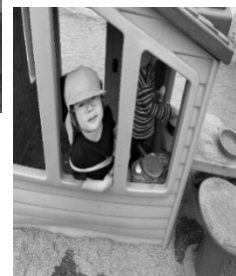
### < 2 歳児 >

ログハウスが設置された当初は子ども達が入り口に集中し、押し合ったり入れなくて泣いている子がいたりトラブルがしばしば見られました。しかし、遊んでいくうちにインターフォンを「ピンポーン」と押し、「おじゃましまーす」とお客さんになって入ってもらったり、「ただいまー」と家族として入ったりと、子ども達同士でやりとりをしながら遊ぶ場所になりました。また、囲まれた空間が「自分だけ」や「自分達だけ」の場所という、特別感を楽しんでいるようでした。



### < 3 歳児 >

ログハウスの中でままごとのご飯を作って食べたり、「いってきます」「ただいま」と出入りして楽しんだりしていました。自分達の家のように落ち着ける空間は子ども達のお気に入りの遊び場の一つです。また、ログハウスの窓やカウンターから砂で作った料理を友達や先生に渡してお店屋さんのようにやりとりをしたり、備え付けの受け皿に砂や水を何度も入れたり、それぞれの遊びを楽しんでいる 3 歳児です。



## ○ プレーリーテーブルとイス

赤と青の色彩がはっきりしていてカラフルなテーブルとイスは、子ども達にとって魅力的で触ったり座ったりしてみたい場所になっています。また、どこを触っても優しい丸みがあり、未満児の子ども達に使いやすい高さで、この場で砂遊びやままごとを楽しんでいます。色水遊びや泡遊びなど、季節ごとに様々な遊びの場に変化していきます。イスをログハウスに持ち込み、じっくり遊ぶ子や友達とのやりとりを楽しむ姿も見られました。



### 3. 成果と評価

黄色マルチフェンスにより、以上児の子ども達と交差することなく未満児の子ども達の遊びの安全が保障されました。ぞうさん滑り台では、年齢にふさわしく転落の不安がない安全な遊具を使った遊びを楽しんでいます。四つん這いでくぐる、しゃがむ、登る、降りる、滑り降りる等の様々な動きを経験し、楽しみながら繰り返し体を動かして遊び脚力やバランス感覚等が培われ、身体の発達が促されていると実感しています。また、ログハウスやテール・イスでは、「ピンポーン」「どうぞ」「おじゃまします」「いれて」等のやりとりを通して子ども達の言葉も育ってきています。さらに砂や遊具を運んでままごと等の見立て遊びの楽しさにも広がりが見られました。色や形がかわいらしいので喜んで子ども達が集い、保育者や友達の様子を見てまわりの子ども達も様々なことをやってみようと真似して遊んでいました。やりとりやごっこ遊びなどを通して、少しずつ保育者や友達とのコミュニケーションが深まるなど、豊かな育ちが見られました。

### 4. 今後の課題と展望

一目散に固定遊具にかけ出していき、初めて使用した時の子ども達の嬉しそうな笑顔は特別でしたが、今でも目を輝かせて遊びを楽しむ姿が毎日見られています。新園の園庭づくりはまだ始まったばかりです。現在の園庭は、未満児のスペースを仕切って確保しても他にまだまだ十分な広さを有しています。

草花を摘んだり虫探しをしたりできるような場所など、子ども達にとってどこにどんな物があれば遊びのイメージがふくらみ、遊びが生き活きと展開されていくのか試行錯誤しながら、より魅力ある園庭づくりを目指していきたいと考えています。

今後も一人ひとりに寄り添いながら子どもの心身の発達を願い、様々な事を経験し、子ども達の遊びが充実したくさんの満足感が味わえるような楽しい園庭づくりを目指していきたいと思います。助成していただいたおかげで年齢に応じた遊具の活用ができたことに感謝し、今後も大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

以上